

日本IT書紀

221 細腕繁盛記

11 嚇躍篇

卷之二十九 仙躰

佃均



© 2004 TSUKUDA Hitoshi (Licensed under CC BY NC ND 4.0)

本作品はCC-BY-NC-NDライセンスによって許諾されています。ライセンスの詳細内容は <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja> でご確認ください。

第二百二十一

細腕繁盛記

一

一九七三年のこと、大阪のよみうりテレビが制作したドラマ『細うで繁盛記』がたいへんな人気を集めていた。放送されたのは、毎週木曜日の午後九時半から一時間である（同じタイトルだと著作権が問われるかもしれないので、本節では漢字「細腕」としておく）。

そのタイトルに呼応したわけではないが、女性が情報処理会社を創業するケースが散見された。

一九七五年の時点では次のようだった。

- ・ インターナショナルデータリサーチ株式会社（東京都）
- ・ サクラ電子計算株式会社（東京都）
- ・ 有限会社三信計算（東京都）
- ・ 株式会社事務サービスセンター（東京都）
- ・ 株式会社デヤンティシステムサービス（東京都）
- ・ 千代田計算センター株式会社（東京都）

- ・ 株式会社内外データサービス（東京都）
- ・ 株式会社ユー・エス・イー（東京都）
- ・ 株式会社アプリコットビジネスセンター（川崎市）
- ・ 小田原データセンター株式会社（小田原市）
- ・ 天満インプリントサービス株式会社（大阪市）
- ・ 株式会社東邦ビジネス管理センター（大阪市）
- ・ 日本コンピュータサービス（大阪市）
- ・ 株式会社福岡コンピュータセンター（福岡市）

七五年の時点で国内の情報サービス会社は一千社を超えていたので、全体から見れば「数えるほど」だった。共通していたのは主業務はパンチ業務だったことである。

計算センターで鳴らしたパンチャーもしくは優秀なスーパーバイザーのうち、上昇志向が強かった女性が、それまでの経験と人脈を生かして独立したケースが圧倒的だった。

東京が八社、大阪が三社というのは、大企業の集中度からいって不思議はない。川崎、福岡というのも、工業地帯と大規模な港湾を擁し、地域経済の中心地という点で納得がいく。

そういう中に小田原に本社を置いていた会社が一社ある。小田原とはどういう立地であるかという点、なるほど戦国の世には北條早雲、氏綱、氏康、氏政、氏真の五代が栄

え、早々と伴連の屋敷が軒を連ね、鉄砲加治が盛んに鞆の煙を吐いていた。

徳川の初政においても、箱根関所の後詰であるとともに、伊豆韮山越えで攻め入ってくる軍勢の防ぎとして重きなをした。のち東海道五十三次の宿場町として栄えたが、明治にいたって鉄道（東海道本線）が通らなかつたため、中核都市として発展する機会を失った。

カマボコと小田原二郎、曾我兄弟、大雄山最乗寺、あるいは正月二日、三日の大学對抗箱根駅伝のほか、いくつか工場が存在する地方都市に過ぎない。どう見ても七〇年代、この町にコンピューター処理の需要が高かつたとは思えない。

実際、七五年の当時、この町にあった情報サービス会社は会計事務所を母体にした小田原計算センターと小田原データ・センターしかなかった。小田原版「腕繁盛記」を眺めてみたい。

二

主人公は境ヒサ子という。

インタビューをしたのは二〇〇四年のよく晴れた冬の某日だったが、海に面した土地がらのせいとか、日差しが暖か

く感じられた。

JR小田原駅から南に伸びる大通りを歩いて十分ほど、商店街が切れるあたりに六階建ての白いビルが建っている。屋上近くに「ODC」をデザインしたオレンジ色のマークが付いている。

自社ビルである。一九九六年に竣工し、市内に分散していたオフィスを統合した。

通りに面した入り口に「不思議舎」の幟旗が幾本か立っていた。「小田原データ・センター」の社名より、はるか目立つ。不思議舎とどのような関係なのかを訊ねると、

「健康食品をね、売っております」

沖繩のウコン入り黒酢、はちみつのだし、紫蘇ジュース、オーストリッチ（ダチョウ）のハンドクリームなどを扱っている。

——健康ブームにあやかつた便乗ビジネスか。

と疑つたが、答えは違つていた。

「次の世代に何を残すか、ということ考えたとき、わたしが始めた事業より大事なことがあることに気がついたんです。それは、健康」というものです。いまの日本人が食べているものは、子孫に重大な影響を及ぼすのではないでしょうか」

なるほど花粉症、アトピー、シックハウス症候群といっ

た、かつてこの国ではあまり聞かなかった症状を訴える人が増え、一方、牛のBSE（脳海綿状症）、鶏のニューカッスル病、農薬漬けの輸入野菜などの報道が珍しくない。加えて回収した牛乳を再処理して出荷したり、賞味期限を偽って売ったりと、食品を扱う事業者のモラルが信じられないほどに低下している。

「ですからこれは、母親としてのささやかな抵抗」
そのために別会社まで作っている。

長く愛用（ないし愛飲）していると、不思議とアトピーが治り、花粉症の症状が軽くなるという。

それで「不思議舎」。

「町の人は、この会社の本業をほとんど知らないでしょうね」

データエントリー、ソフトウェア開発、システム・オペレーションなどと言っても、日常生活とは縁がない。たしかに分らないであろう。

境が生まれたのは長崎である。

高校を卒業して、大同毛織に入った。

ちなみにいえば、大同毛織は一八七九年に栗原イネという女性が創業した。日清・日露、第一次大戦の繊維景気に乗って事業を拡大し、一九一八年「栗原紡織合名会社」と

なった。

イギリス式の最新鋭設備を据え紡織一貫工程を確立しようとしたが、二三年九月一日、竣工式の当日、大地が揺れ完成したばかりの工場が燃えた。関東大震災である。

三六年「栗原毛織株式会社」に社名を変更し、現在の愛知県稲沢市に工場を建設して毛織物の製造を始め、四一年関西製絨所を合併——という歴史を持っている。

第二次大戦後は高級毛織「MIYUKI」のブランドで知られ、第二次大戦後、紳士服店「ミリオンテックス」で急成長した。つまりこの会社も「細腕繁盛記」の一社である。

境は、

「工場の女子工員になるつもりで入った」

と言う。

ところが、愛知県稲沢にあった本社経理課に配属された。ソロバンの腕がよかったためだった。入社して数年もしないうち、ここにUNIVACのPCSが入った。

誰も操作方法が分からない。

——経理業務を処理するために購入したのだから。

という理由で、いちばん若かった境に操作が任せられた。

いまのようにユーザー教育のための講習会もない。操作説明書と首っ引きで試行錯誤を繰り返すうち、何とか動く

ようになった。カードパンチから配電盤のワイヤリング、プリントアウトまで一人でこなした。

「次第に面白くなってきました。それで専門にやってみようかと」

そう考えるようになったとき、中経計算センターという会社がパンチャーを募集している広告を見た。資料によると、名古屋市中区錦にあった中部経済新聞社系列の「株式会社中経計算センター」がそれに当たる。

六四年八月設立、資本金二千万円、三宅兼松という人が社長で、沖電気の「OUK1004」「OUK9300」のほかカードパンチマシン三十台を設置し、従業員は七二年当時、五十人とある。

——パンチャーでいい。

——と思って応募した。

面接で経験を問われて、ありのままを答えた。

——大阪に行ってくださいか。

——はい、構いません。

境は言う。

「九州の人間は、土着的なタイプと遊牧的なタイプがあるように思う。わたしはどちらかというと遊牧的な方みたくです。面白い仕事があれば、働く場所はどこだっていい。長崎を出たときからそういう感覚でした。だから素直に、

はい、と答えたんです」

大阪の松下電器産業の電算部に向向した。

最初はパンチャーとして勤め、次にシステム開発に従事した。パンチカード・システムのワイヤリングをやっていたキャリアが買われた。

「マシンの名前は覚えていませんが、富士通の電子計算機でオンライン・システムを動かす仕事でした。パンチからプログラム作りまで、すべて自分たちでやらなければなりませんでした」

日本コンピュータ・ダイナミクスの大黒節子というように、プログラマーというのは大卒理工系を出た男性にしかなれない職業、と考えられていた時代である。

「電子計算機に触るのも、プログラムを組むのも初めてでしたけれど、それはとても面白くて、夢中になりました」

職場でいちばん若い彼女が徹夜をものともしないので、男性社員も動かざるを得ない。

ささくれ立つ職場の雰囲気、紅一点のあるなしで和らいだ。

——ヒサちゃん。

と可愛がられた。

縁あってある男性と恋に落ちた。その男性の名は境宏とあった。すなわちのち小田原データ・センター社長。

結婚を機に夫の郷里である小田原に転居した。

「普通なら専業主婦に納まって、夫の収入に頼る生活に入るのでしょうけれど、何かやりたくて」

スーパリーのパートタイマーでは面白くない。できるのはパンチャーかプログラマーだが、乳飲み子を抱えていたために朝九時から夕方五時までの勤務はできない。それに見回したところ、それらしい会社もない。むろん求人もない。

「じゃ、自分で始めるしかないな、と」
彼女は行動した。

三

夫に、

「仕事を始めたい」

と打ち明けたとき、夫は

「分かった」

とは言わなかった。

「いくら、要るんだ」

三島市に「静岡システムサービス」という会社があった。調べると三島市の西本町に同名の会社がある。ただ、それが境の言う「静岡システムサービス」かどうかは確認が取れない。

「社長は相沢さんという方でした」

前もって、この人物に打診してあった。

——使っていない中古のパンチマシンがある。それでよければお貸ししましょう。

夫から「いくら要るか」と聞かれて、彼女は

「八十万円」

と答えた。

七二年当時、大卒男子の初任給一年分である。

「分かった」

ようやくその言葉を夫が発した。

トラックがゆるゆると箱根の坂を往復した。三島から運ばれてきた五台のパンチマシンが自宅に設置された。しかしパンチャーはいない。

「夢中でしたね。なりふり構わず、といった感じだったでしょう。知り合いの方に、パンチャーになりたい人はいませんか、と聞いて回りました」

「どんな仕事か説明しても、なかなか分かってもらえませんでした。でも仕事はありませんでした。五人で楽しく井戸端会議をやっていたようなものでした」

「全員で毎日、営業に出かけるんですけれど、電子計算機を使っていそうな会社なんてないし。弱っちゃったわね

え、そのうち何とかなるわよ、なんて笑っていました。だから最初は給料はなし。能天気なものでした」

だが、そうも言っていられない。

電子計算機を使っていそうな会社はなかったが、工場はどうだろう。

大磯にジョンソン・エンド・ジョンソンという外資系企業の工場があった。両サイドに綿を巻いた「ジョンソン綿棒」、ちよつとした切り傷などに使う「バンドエイド」、使い捨てコンタクトレンズ「ワンデイアキュビュー」のメーカーといえれば分かりが早い。

ただし当時は日本に進出したばかりで、こんにちほどの知名度はない。

思い切つて出かけて行つた。

「工場に入る手続きなんて、何も知らなかったものですから、守衛さんに、ご担当者をご紹介してください、とお話しました。守衛さんも困つたでしょうね。若い女が突然やつてきて、電子計算機がどうのこうの、と言われたんですから。でも、たいへん親切な方で、何度かうかがうちに顔見知りになりました、取り次いでいただけました」

応対に出たのは電算部の部長である。

「データ入力の仕事をやらせてください」

という、

「じゃ、とりあえず」

わずかばかりの仕事をくれた。

初めての仕事だった。

「どんな程度か試しに使ってみよう、という感じだったと思います」

本来であれば、工場の電算部門から出るパンチの仕事は、系列会社かすでに取引きがあるコンピュータ本体のメーカー系計算センターに発注されるべきであった。

直接の取引口座がない会社に、系列会社の頭越しに仕事を出したのは、緊急時やオーバーフローへの対策だったともいえる。

「取引きのルールも何も知らなかった。必死だったんでしようね」

その必死さが伝わったのは、それより前に境の人柄があつたからである。

「最初のうちは、時間の厳しい仕事でした」

と境は語る。

夕方五時に受け取った伝票を夜中に打ち上げて、翌朝までに届ける。そういう仕事ばかりだった。境が伝票を受け取りに出かけている間に、残つた四人のうちの誰かが夕飯の支度をし、境が戻ってくるのを待つて食卓を囲んだ。境の一粒種である佳子という女兒の世話も誰かがした。五人

の母親がいるようなものだった。

ジョンソン・エンド・ジョンソンから信頼を獲得したところが、事業の拡大につながった。

創業から三十年余を経た現在、小田原データ・センターはデータエントリ、ファシリテイ・マネージメント、情報機器オペレーターの派遣、ソフトウェア開発・販売、ユザー教育サービス、テレマーケティング、ヘルプデスクサービスなどに事業を広げ、グループ三社、従業員総数は約三百人を擁するまでに成長している。

「成功した秘訣があったわけではない。だから、わたしが特別な存在であるわけがない」と境は言う。

それはそうであるに違いない。筆者はただ、業界における「腕繁盛記」の一例として、この会社を取材したのだが、オフィスを全体に漂う屈託のない明るさは特筆していい。

余談がある。

大手企業の工場から仕事でコンスタントに出るようになったころの話である。

パンチマシンが、キーを叩くたびに大きな音を立てる。

その脇で、境の娘・佳子は寝息を立て、あるいはマシンの間をすり抜けるようにして遊んでいた。

彼女はそういう中で成長した。

「キーパンチの音を子守唄にして育ちました」と佳子はいう。

「学校に入って最初に驚いたのは、この子も、お母さんがいつでも家にいる、ということでした。わたしの母は反対に、いつでも外を飛び回っていていましたから、わたしはそれが当たり前だと思っていたんですね。でも、淋しいとか感じたことは、まったくありませんでしたよ」

長じて佳子はアメリカに留学し、のちに小田原データ・センターの営業部「I・Cスタッフ」に務めていた。さらにのち社名を「オーデイーシー」に改称し、母のあとを継いで社長に就いた。

「I」はインフォメーションでもアイデンティティでもなく「アイデア」、「C」はコンピュータでもコミュニケーションでもなく「チャレンジ」を意味していた。

補注

ドラマ『細うで繁盛記』 原作・脚本は花登筐、演出は小泉勲。

出演は、主人公が新珠三千代、その夫が滝田裕介、初恋の人が高島忠夫、小姑役が富士真奈美。終戦直後、伊豆熱川の貧乏旅館に嫁いだ大阪の料亭の娘・加代が体たらくな夫、身内のいじめ、ライバル旅館のいやがらせにもめげず立派に再建し、チェーン店に仕上げていく。はじめは二クール、半年の予定だったが予想に反して視聴率が上昇した。そのため九か月も延長された。以後「細うで繁盛記」といえば、一代で事業を拡大した女性の総称となった。

インターナショナルデータリサーチ 一九六九年十二月、穂積信子が外資系企業に対する経営コンサルティングを目的に設立した。のちシステム開発に軸足を移した。

サクラ電子計算 七三年十一月東京・新宿に桜井幸子が資本金二五〇万円で設立した。デパートや金融機関を得意先にパンチ入力を行った。

三信計算 六八年十月東京・東池袋に加藤恭子が資本金百万円で設立した。パンチ入力専門会社だった。

事務サービスセンター 六八年十二月東京・新宿に矢野信子がデパートやクレジット会社の伝票整理事務代行・事務員派遣業として創業し、七四年九月株式会社となった。事務員派遣の一貫としてパンチ業務に進出し、七〇年代にFACOM230を設置して事務計算サービスを手がけていた。

チャンティシステムサービス 六六年東京・柳橋に屋城雅子、屋

城秀多、長作一が設立した。パンチ業からスタートし要員派遣業として事業を拡大し、日本交通公社や石川島播磨重工業、富士ゼロックスなどと取引きがあった。出始めたばかりのワープロ専用機による文書作成サービスなどを手がけた。

千代田計算センター 六四年に中島孝子が設立した。東京都情報処理産業協同組合の一員で、川口重信、河野健比古らと親交があった。

内外データサービス 七一年八月東京・日本橋本町に中村和子が資本金三百万円で設立した。中村は野村コンピュータシステムのパンチャーだった。

ユー・エス・イー 七〇年三月東京・恵比寿に吉弘マサコ、吉弘京子が設立した。プログラマーだった吉弘京子が事業の中心で、センチュリリサーチセンタ、間組、住友建設などにプログラマーを派遣、のち受託開発に切り替えた。パンチャー出身者がパンチ会社を作るケースが圧倒的だった当時、女性プログラマーが設立したソフトウェア会社として異色だった。吉弘京子は専務として仕事を続け、母・マサコ死去のあと実兄・文平に社長を譲った。東京・恵比寿に自社ビルを構え、ユビキタス系アプリケーションの開発などのほか自社製品の開発・販売を行っている。

アプリコットビジネスセンター 七一年一月川崎市に畠山笑美子が設立した。畠山は鶴見駅前にあった横浜計算センターでパンチャーをしていた。のちパンチ業とソフトウェア開発の二本立てで事業を拡大した。

天満インプットサービス 六六年十一月大阪市北区池田町に山浦セツ子、松谷美智子が資本金三百万円で設立した。

東邦ビジネス管理センター 六四年七月東大阪市金岡に吉野英子

が創業した。八〇年代に独自に考案した漢字入力システム「EIKOシリーズ」を開発し、電電公社の電話帳データ入力などで事業を拡大した。

日本コンピュータサービス 六八年七月大阪・道修町に西山道子が設立した。三和銀行、東洋信託銀行などからパンチ業務を受託していた。

福岡コンピュータセンター 七〇年二月福岡市博多区に原田則子、小林孝雄らが設立した。出資者の小林孝雄は福岡電子計算センター社長だった。個人出資のかたちで福岡電子計算センターのパンチ部門を分離独立させた。

伴天連の屋敷 戦国時代、小田原を本拠にした北條氏は率先して南蛮文化を取り入れ、キリスト教の布教を公認した。これにより小田原の城下には教会や洋風建築物が建ち、鉄砲の技術が伝えられた。織田信長は今川氏を通じて得た北條氏に関する情報から南蛮貿易の利を学んだとされる。

箱根関所の後詰 江戸開幕後の元和五年(一六一九)、芦ノ湖畔に設けられた。徳川政権の転覆をねらう勢力による武装蜂起を防ぎ、江戸在住の諸大名妻女の脱出を阻止するため「入鉄砲・出女」の禁制が敷かれた。関所破りは死刑だった。関所跡は六五年国史跡に指定された。

東海道本線 一九二〇年(大正九年)に始まった工事では、旧来の東海道沿いに鉄道を走らせる計画だったが、箱根越えの坂があまりに傾斜が激しいため、小田原の手前の国府津から御殿場を経由して沼津に抜けるルートが選ばれた。

外郎 ういろう・律令で定員外の官僚「員外郎」のこと。室町時代に元帝国の礼部員外郎だった陳宗敬(1322~1395)が

日本に亡命・帰化し、痰切り・口臭消しなどに効く「透頂香」という薬を伝えた。陳宗敬の家を「外郎家」と呼んだことから、薬の名としても使われた。戦国時代、後北條氏が外郎家庶流の宇野藤右衛門定春を京都から招き透頂香を作らせた。北條氏は京都の公家社会や室町幕府、文化人と関係が深い宇野藤右衛門を通じて、さまざま外交を展開し、宗祇ら連歌師を招いて京風文化を移入しようとした。透頂香を売る外郎売の口上(アナウンサー常識の早口言葉)は歌舞伎十八番の一つに数えられる。名古屋銘菓のウイロウ(うるち米やもち米の粉などに黒砂糖・水などを混ぜ、型に入れて蒸した菓子)は正しくは「外郎餅」で、色や形が透頂香とよく似ていたためという説と、外郎薬の口直しに用いたためという説がある。ちなみに「外」を「うい」と読むのは唐音。

曾我兄弟 一一七六年、伊豆・宇佐美庄の領有をめぐる伊東、工藤の同族二家が争い、狩遊びにかこつけて工藤祐経が伊東家の嫡男・伊東河津三郎祐泰を殺害した。これによって伊東家は没落したが、祐泰の遺児である曾我十郎祐成と曾我五郎時致の兄弟が十七年後の一一九三年五月、大井松田で行われた源頼朝の巻狩の際、ついに工藤祐経の仮屋を見つけ出して祐経を討ち取った。兄十郎祐成は仁田忠常にその場で討ち取られたが、弟五郎時致はさらに頼朝の仮屋目指して突進し生け捕られ、翌日斬首された。

大雄山最乗寺 曹洞宗。「道了尊」の通称で知られる。創建は応永元年(一三九四)、開山は了庵慧明禅師。背中に羽根が生えた修験者(天狗)と烏天狗が山門の前で睨みを利かせ、修験場であることが分かる。「道了尊」はここで修験を積み行者となった相模房道了尊者に由来している。

大学對抗箱根駅伝 一九一八年(大正七)の大晦日、東京の下宿で肉鍋をつついていた早稲田、慶応義塾、明治の学生が酒の勢いで「東海道を走りきつてみせる」と豪語し、下駄で走り始めたのがきっかけ、という伝説がある。一九二〇年(大正九)日本マラソンの父とされる金栗四三らの発案で報知新聞社が支援して行われた「四大校駅伝競走」が前身となった。当初は東京一日光、東京―水戸などの案があったが、結局東海道を通って箱根にいたるルートに落ち着いた。「四大校駅伝競走」は東京高等師範(のち筑波大学)、明治大学、早稲田大学、慶應大学の四大学が参加し、二月十四日午後一時に東京・有楽町の報知新聞社前を出発し、五区トップの東京高等師範の選手が箱根のゴールに到着したのは午後八時三十八分だった。

小田原計算センター 小田原商工会議所が中心となり地域の共同計算センターとして六九年十月に設立された。当初はUNIVAC機のエューザーだったが七三年FACOM230―25にリプレイスした。

花粉症 医学的な呼称は「花粉ブロックスプレーバイオミスト」。長く「アレルギー性鼻炎」とされてきたが、最近の研究で季節ごとに大量発生する植物の花粉がヒトの粘膜を刺激しアレルギー反応を引き起こすことが判明した。ことに春先に発生する杉の花粉による被害が顕著で、現代人の日常生活や食生活に遠因があるとされる。

アトピー アレルギー性皮膚炎の一種だが、原因は特定されていない。花粉症の一症状として発症することもあれば、汗や被服との摩擦で皮膚炎が起こるケースもある。重度になると皮膚全体に発疹ができ、出血などにより雑菌感染症を併発することもある。

シックハウス症候群 日本の家屋が高度に外気から密閉されるようになった結果、室内空気の汚染や新建材に使われている塗料、接着剤などによる眩暈や頭痛、吐き気といった症状が発生するようになった。最近では埃や黴、ダニなどによる呼吸障害も起こっている。

大同毛織 ダイドーリミテッド。当時、愛知県稲沢市に本社と工場があった。のち本社を東京都千代田区外神田に移し、稲沢工場は二〇〇二年に閉鎖された。メンズニューヨーカー、レディースニューヨーカー、ジャルダン、ユースーツ、ミリオンテックス、パピールのブランド子会社、中国・上海など四か所に工場を持ち、大規模ショッピングモール「ダイナシティ」の運営も行っている。

日本IT書紀 221 細腕繁盛記

著 者：佃 均

発行者：（特非）オープンソースソフトウェア協会
<http://www.ossaj.org/>
info@ossaj.org

発行日：2023年4月10日

本作品は2004年-2005年ナレイ出版局より刊行された「日本 IT書紀」全5分冊を底本とし、原著者が一部改定を加えたものを複数の電子書籍に再構成して CC-BY-NC-ND ライセンスにより公開します。



© 2004 TSUKUDA Hitoshi (Licensed under CC BY NC ND 4.0)

本作品はCC-BY-NC-NDライセンスによって許諾されています。ライセンスの詳細な内容は <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja> でご確認ください。